

○キャンバスリンク機能の活用例

動画参照



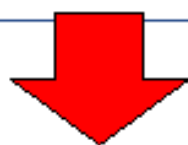
アイコンとキャンバスをつなぎ合わせることで、4つのアイコンをつなぎ合わせて、依頼することができる。

○VOCAを使用した効果

ICT機器を活用して複数の言葉をつなぎ合わせて伝えるようになり、以前に比べて複数の言葉をつなぎ合わせながら、自分の言葉（発語）も加えて伝えることができるようになった。

要因

- ・ VOCAアプリを使用したことで音声を耳にする機会が増えた。



- ・ 場に応じた言葉をVOCAを通して理解することができた。
- ・ 自分の言葉（発語）で自信を持って伝えることができるようになった。

○現在使用しているキャンバス

複数のキャンバスが線で結ばれているように、現在は、キャンバスを行き来することができるものを使用している。



○キャンバスリンクの構成の理解

複雑に行き来することで、どこにどんなアイコンがあるのか理解することが難しいのではないか

指導の積み重ね



戻るアイコンを自分で使用できるようになり、キャンバスリンクの構成を理解して使用できるようになった。



ICT機器
(タブレット)

興味・関心が高い

思いがけない成長



ICT機器活用時の考え方

- ・ 始めから使えないだろうと考えない。
- ・ これまでに把握していた生徒像を絶えず見直し、可能性を探求してチャレンジしていくことが大切。

④伝える相手の広がり

○伝える相手の変化

発語のみのコミュニケーション

- ・伝えられる相手が限定される。
- ・関わりの少ない人に伝えるときに、自分の考えと違っても話を合わせたり、伝えることすら諦めたりしてしまう。

VOCAアプリを活用したコミュニケーション

- ・普段関わりが少ない教師にも要求や依頼をすることができるようになった。
- ・登校時の朝のあいさつでは、発語では伝わらなかった友達にタブレットを使うことで、意思や思いが伝わることがわかると、その後も日常的にタブレットを活用して伝えるようになった。

○伝えられる手段

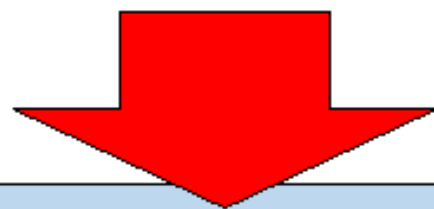
ICT機器（タブレット）の活用

伝えられる内容の変化

天気や飲み物、服のメーカーなどの
本人が興味を持っていること

伝えられる選択肢の増加

アイコンを複数選択して、言葉をつなぎ
合わせて伝えられる。



より具体的に伝えることのできる手段の拡大

①タブレット操作時の環境設定

○実態把握

- ・ 脳性まひによる四肢まひや筋緊張の亢進により 長時間の姿勢保持が難しい。
- ・ 上肢を動かして タブレットを直接触れて操作することが困難。
- ・ スイッチを押したり、握ったりすることができる。

課題

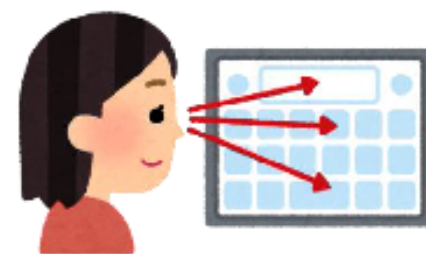
- ・ タブレットを直接操作できない。

○タブレット操作方法

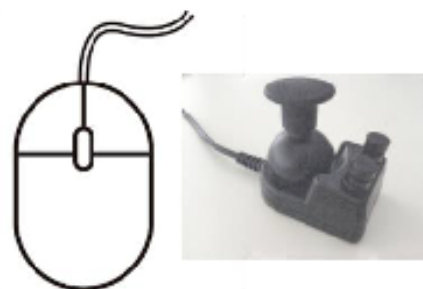
直接触れて操作



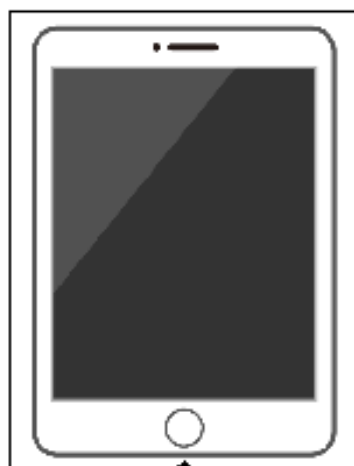
視線入力で操作



マウスで操作



スイッチで操作

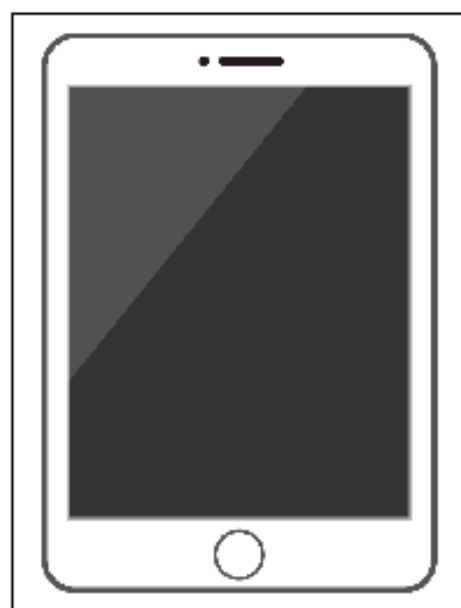


○タブレット操作時の課題の解決①

改善策

- ・スイッチを活用してタブレットを操作する。

タブレットとスイッチをつなぐ方法



なんでもワイヤレス
(Technotools)

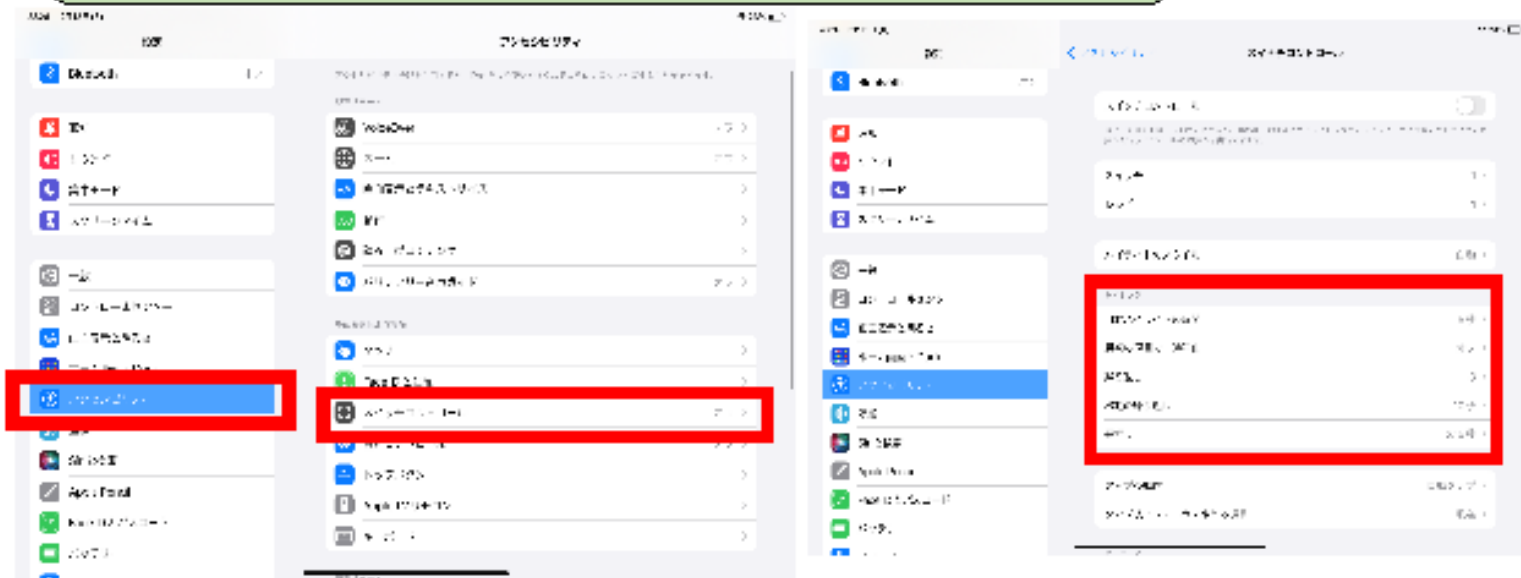


○タブレット操作時の課題の解決②

改善策

- ・自動ハイライト機能を使用する。

自動ハイライト機能とは



設定されたハイライトの時間で選択肢のアイコンを自動で移動させることができる。



＜対象生徒Bの設定＞
タブレットでハイライトの移動を認識してから体を調整してスイッチを押すまでの時間が、予想以上に必要としたため、15秒で設定して取り組むこととした。

③使用するスイッチについて

○にぎりスイッチの課題の改善への取り組み①



課題

一度握ると握り続けてしまい、電源が連続して入ってしまうこと。

選択したアイコンの音声 flowed 後に、最初にフォーカスされるアイコンに戻って再生されてしまう。
どちらを選んだのかははっきりしない。

改善

握った後に力を抜くように取り組んでみる。

課題

筋緊張により瞬時に力を抜くことは困難。

○にぎりスイッチの課題の改善への取り組み②

課題

筋緊張により瞬時に力を抜くことは困難。

動画参照

改善

スイッチコントロール

「繰り返しを無視」と「タップ後にフォーカスされる項目」



の二つの設定を使用して取り組む。

結果

スイッチを押し続けて選択しても選択したアイコンのみ押すことができるようになり、本人が選んだ音声が流れるようになった。

○リトルマックの課題の改善への取り組み①

